

## 授業方法について独自に工夫していること 【創造科学系】

体カトレーニング論, コーチ学共に講義形式の授業であるが, 学生同士の学び合いの時間を設けている。今年度よりコーチ学ではC-Learningを活用し, 即時的なアンケートなどICTを活用した授業を展開した。

機材等の問題で一度に作業ができる人数が限られているので, グループごとに分かれて異なる課題に取り組めるようカリキュラムデザインをしている。  
グループでの共同制作や, 作品についての講評を相互にし合うなどして, コミュニケーション能力や気持ち・感想等を言語化する能力の向上を目指している。

実技授業のため, 学生個人が予習や復習を行うのが難しい。そのため, 毎授業の初めに, 前回の復習の時間を十分に割くことによって, できない状態で次の内容に進むことを極力なくすようにしている。また, 学生同士で相談させながら互いに教えあう時間を設けることによって, 能動的に授業に取り組めるようにしている。

単なるデザイン実技の経験に留まらず, 学生本人たちの頭の中になかったような新しい発想をうまく導けるような課題設定と展開をするようにしている。  
また, PCとプロジェクターを使って, アプリケーションの習熟度を高めるようにしている。

美術館で撮影した画像を使い, 全体も細部も説明する。  
学生がノートを取りたいようなことはすべてプリントに書いて配布する。

- ・教科書を軸に, 写真などを多用し, 実例を示しながら説明をする。
- ・製図のプロセスや記号などを理解できるように, 手を動かす演習を取り入れている。

学生さん自身の「気づき」を促すことができるように課題の設定や指導方法を考えながら授業を組み立てるよう努めています。

各々の学生のレベルに合った曲を課題として出している。

4人ずつのグループに分けて, そのグループの学生のレベルに合った曲を課題として出している。  
と同時に, 他のグループの課題や発声法を学べるように授業運営をしている。

演習・実習を取り入れた主体的・対話的で深い学びの講義を展開しています。

- ・授業内容に関連した最新の研究報告を用いて講義を行った
- ・なるべく学生に考えさせるために, すべての学生に質問を行うように工夫した。

以前担当していた先生の工夫ですが, 小児保健と精神保健は, 学内の医師の先生に講義していただいています。  
授業後の課題に対する回答は, 無記名でプリントにまとめ受講生で共有しています。

電気を学ぶ者にとって最も基礎的な内容であるため図を多用し、具体的にイメージできるような授業方法をとっている。学習者とのキャッチボールを重要視し授業を進めている。授業者の理解度を確認するため毎回の小テストを実施している。[1571111電気I]  
最近の電子デバイス話題を盛り込み、学習者のモチベーションを維持するよう努めている。[3573141電子工学II]

実習には、自宅復習用としてワークシートを作成し、教育効果を高める工夫をした。

どのような基準で学業成績の結果を出したか。 【創造科学系】

授業毎に提出させたレポート，最終レポートの結果で成績を評価した。

授業態度や提出物(レポートや作品)等を点数化して成績評価を行う。

成績評価法を詳しく説明することによって、学生自身が成績評価をできるようにしている。具体的には、ルーブリック成績評価法に則って成績を評価することにより、学生自身が現在の学修状況や自己の成績を可視化できるようにしている。

二つの課題の評価

毎週レポートを出させたので、提出回数が多い学生には良い点をつけた。

・シラバスに記載した通り、試験60%、レポート20%、授業への参加度20%の総合評価  
・レポートに関しては、授業中に行う演習としている。

シラバスで提示した基準に沿って、評価をしました。

授業への取り組みと試験によって評価した。

授業への取り組みと実技試験によって評価した。

シラバスに記載の通り、出席状況・レポートの出来具合・作品の仕上がり具合など、総合的に判断して成績を出しています。

出席点，レポート内容，プレゼンの内容等をそれぞれ得点化して，その合計点で評価した。

複数で担当していますので、担当時間(1:1:13)を考え、得点を配分(1:1:8)しています。担当者の得点を合計し、遅刻欠席のある場合は回数を考慮し減点(0.5~2)しました。  
各担当者ごとに①各回終了時提出コメント②定期試験③授業外の課題について、実施した内容を評価しました。③については、最終課題提出時に取得点をお知らせしました。

シラバスに告知している要領で学業成績の結果を出した。

授業参加度，作品，レポートから総合的に評価した。

アンケート結果を受けて改善したいところ 【創造科学系】

概ね結果は良好であると考えられるが、週当たりの学習時間の認識において部活動や外部指導などの時間は、両授業を学ぶにあたって重要な学習時間に含まれると考えられる。現場での実践と授業がつながるようにさらに工夫して、体育科の学生にとって学生が普段頑張っていることが学習の一部にあてられていることを形として評価できるようにしたい。

個別に質問ができるような仕組みを考えてみる。

毎年のことであるが、学生の評価はまちまちで、もっとも気になるのは「難しすぎる」という回答をする学生が少なからずいること。本当に難しいのか、それとも説明の仕方に問題があるのか今後見極めたい。

学生同士で授業内容を深めあうよう考えたい。

専門科目全体と比較して次の項目の評価が低い。

次年度は、3および5について、改善したい。

- 1) 自ら問題点を深く考える
- 2) 自ら情報を集め、自分なりの思考を展開し、それに基づき行動する
- 3) 学生同士で授業内容を深め合う
- 4) 修得したことがらについて、自らの表現で伝える
- 5) 授業の学習目標が達成できる

教材、教具などをさらに工夫して、より分かりやすいものに改善していきたいと考えています。また、質疑や討論のコメントなどの機会を増やし、学生さんとのコミュニケーションの改善に努めたいと思います。

実習の時間が足りないという意見を受け、次年度からは、実習の時間をもう少し確保するように心がけます。

授業のための学生の学習時間にかなり幅があると思われるため、学習時間の少ない学生にもう少し多くの学習を行わせるような工夫が必要と思われる。

さらに学びたいと思ってもらえるようにするために、新しい考えや知識技能、授業をきっかけに情報を集め思考を展開するための工夫をしたいと思います。

また、内容とともに伝えるための話し方、説明の仕方に注意をし、教材・教具の検討をしたいと思います。

選択授業に対しては本来興味関心のある学生が受講しているものと考えるところであるが、シラバスすら予め読んで受講している者が皆無であり、最初の授業日に授業の内容等オリエンテーションをしっかりとやる必要を感じた。[3573141電子工学II]

1～4限フルコマの曜日はなかなか休憩時間がとれず、準備に時間がかかったため、今後は善処したい。実験実習で取り扱う器具の危険性について、理解が不十分な学生が多かったため、もう少し時間をかけて指導したい。